2019年（平成31年）3月12日 火曜日

（9） 読者 2版

山梨日日新聞

私も言いたい

opinion



山梨で経験した 小さな力信じる

以上守られてきた、数百基の石積みのお墓には、朝鮮半島系の渡来人が眠っているかもしれない。すべてを自分の目で見られた。知識に実際の経験が重なると、そこに愛着が生まれる。そこで街の歴史に触れると、自分もその一部として生きていると思える。

◇人は死んでも、その思いをひそかに残していく。そして私の思いも、そこに住み、愛した街に残ることに気づいた。一気に変えることは難しい。しかし、少しずつなら、小さな私たちでも、何かを残し、変えられると、信じられるようになった。韓国に帰ったら、自分の街のために、私が今、できることをしたいと思う。小さな力を信じる。それを私は山梨で学び、帰国する。（甲府市・カンジイェ21歳）

◇韓国に帰国するのに当たり、交換留学生として山梨への思いを述べたい。この1年間学んだことは、今までの人生の5年分に匹敵するほどの多くの驚きに満ちていた。特に人生を変えてしまうような出来事を、多くの先生のゼミで経験できた。そこでは、学生にはできないと思っていたことを、大学生がやっていた。椅子に座って本を読むだけではなく、足を使って現場に行き、街を体全体で感じていた。

◇日頃誰にも気づかれずに、そこにあるモノ。遠い昔に造られた橋や、大戦で焼かれ溶けていったガラスの破片である。今はぶどう畑になった場所に、昔の侍の館である城の痕跡が残っていた。千年